



HOMO FABER EVENT

Crafting a more human future

10 April-1 May 2022 VENICE FONDAZIONE GIORGIO CINII

現代の職人技を革新的な切り口で紹介する文化イベント、「HOMO FABER (ホモ・ファベル)」。2022年4月10日～5月1日に、第2回がヴェネチアで開幕します。



CRAFTING A MORE HUMAN FUTURE
2022: LIVING TREASURES OF EUROPE AND JAPAN

Visual Homo Faber Event 2022. Robilant*Michelangelo Foundation

ホモ・ファベル イベント 工芸が導く人類の未来 2022年：ヨーロッパと日本の人間国宝

会場：ジョルジョ・チーニ財団（ヴェネチア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島）

- 国際的に活躍するデザイナー、キュレーター、建築家が監修する15の展示。それぞれに異なる角度から名匠の技に迫ります。
- 今回は特に、日本古来の伝統工芸にフォーカス。深澤直人（デザイナー）、内田篤呉（MOA美術館・箱根美術館 館長）のキュレーションで12名の人間国宝を紹介。また、写真家の川内倫子さんが12名の人間国宝の工房を訪ね名匠たちの姿を取り下ろした写真を展示します。
- 多様なマテリアル、歴史、技巧を駆使し、機能的な日用品や傑出した装飾品を手がける世界の名匠と若手職人を紹介します。
- 名匠たちの実演は、デジタルアーカイブ、特別な舞台美術、またはライブと、さまざまなかたちでご覧いただけます。
- ヴェネチアにまつわる職人技を紹介する Homo Faber in Citta（ホモ・ファベル・イン・チッタ）を開催します。



San Giorgio Maggiore island, Giorgio Cini Foundation, Venice. ©Courtesy of the Fondazione Giorgio Cini

15 の展示室 22 名のキュレーターとデザイナー 12 名の人間国宝 400 超の展示作品
350 名超の参加デザイナーと職人 40 以上の参加国 60 を超える没入型体験展示

2022 年に 2 度目の開催となる「Homo Faber Event (ホモ・ファベール・イベント)」は、ヴェネチアのサン・ジョルジョ・マッジョーレ島にあるジョルジョ・チーニ財団の 4,000㎡もの広大な敷地で開催されます。

15 の匠の展示を通じて職人文化に触れる貴重な機会です。世界の名匠の見事な技の数々に加え、今回は特に日本の工芸にフォーカスし、日本で古来より大切に守られてきた伝統技法と、ヨーロッパのものづくりに与えた影響に焦点を当てます。これとともに、消失の危機にある伝統技巧から現代的なものづくり手法、多様な素材、専門知識を紹介します。

なかでも、深澤直人、内田篤呉をキュレーターに迎える展示「12 Stone Garden」は、国から重要無形文化財認定を受ける 12 名の人間国宝を招待し、雅やかな磁器、漆塗のハーブ、手染めの着物など、名匠による見事な作品群を紹介します。また、写真家の川内倫子が、12 名の人間国宝の制作の様子を撮り下ろした写真展示「The Ateliers of Wonders」も開催します。

「Homo Faber Event」の目的は、世界中の優れた職人たちの存在を守り、ものづくりの知恵、作品の裏にある物語や地域性を丁寧に伝えることです。匠と来場者が直接触れ合う機会が生まれ、作品が息づくような会場を作り出します。来場者は、いかに現代的工芸がアートやデザインとつながっているかを感じていただけるでしょう。

ある会場では、世界トップクラスのブランドの製品の裏に隠されたものづくりの技術の高さを紹介。また、別の会場では、美術監督のロバート・ウィルソンが手がけたプッチーニのオペラ、蝶々夫人の美術セットが来場者を舞台の世界へと誘います。さらに次世代のオートマタ（からくり人形）や日常と工芸の接点を見出すティールームなども登場。デザインの発展においていかに職人技が重要な役割を担っているかに触れます。

さらに、ヨーロッパの工芸、デザイン学校の学生たちがガイドツアーを行う「ヤング・アンバサダー・プログラム」を開催。世代を超えたインタラクティブで有効な教育活動を通じて、未来に必要な守るべき工芸の重要性にも光を当てていきます。

会場のジョルジョ・チーニ財団は特別な場所。通常は非公開のロンゲーナ・ライブラリー、ガンディーニ・プールなどを本展のために特別公開。来場した方にとって唯一無二の体験となるはずです。

敷地の外では、「Homo Faber in Città (ホモ・ファベール・イン・チッタ)」を開催。ヴェネチア市内を巡り職人技に触れる旅へ。ヴェネチアの職人たちのアトリエの特別公開や、美術館やショップなどの情報を提供。来場者はアプリなどを用い自身でツアーをアレンジし、新たな視点からヴェネチアを体験できるよう計画しています。

【15の展示解説】

「12 Stone Garden」

キュレーション：深澤直人（デザイナー／日本）、内田篤呉（MOA美術館、箱根美術館館長／日本）

日本の伝統技術を修得し、その文化的遺産を正當に受け継ぐ日本の人間国宝、12名の作品を展示。着物、漆塗のハープ、竹の花籠といった圧巻の作品が、深澤直人が伝統的な日本庭園をイメージしてデザインした12個の大理石の展示台の上に並びます。

「The Ateliers of Wonders」

キュレーション：川内倫子（フォトグラファー／日本）

ヒノキが立ち並ぶルネッサンス様式の回廊に、川内倫子の写真作品を展示。川内は「12 Stone Garden」に参加する12名の人間国宝の工房を訪問。何世紀もの時を超えて受け継がれる技、伝統を革新へと変えていく職人たちの姿をつぶさに撮り下ろしました。

「Magna Chartae」

キュレーション：ミケーレ・デ・ルッキ（建築家／イタリア）

紙工芸の実用性と多様性、手技による独創的な製作過程にフォーカス。美しさと創造力を湛える作品からは、紙工芸の文化的な重要性が見えてきます。高い技術と芸術性を兼ね備える職人たちの実演ライブや息をのむようなインスタレーションのほか、モンブランの職人がつくった万年筆の体験もできます。

「Pattern of Crafts」

キュレーション：セバスチャン・ヘルクナー（デザイナー／ドイツ）

サン・ジョルジョ・マッジョーレ聖堂前の広場に描かれている幾何学模様をモチーフに、デザイナーのセバスチャン・ヘルクナーが17組の職人や工房とともに、大理石、モザイク、寄木細工、織物など、さまざまな技法へと展開。デザインの特徴をそれぞれの手法で展開しながら、名匠の技がいかに唯一無二のものであるかを明らかにしていきます。

「Tracing Venice」

キュレーション：デ・カステッリ（メーカー／イタリア）、ザネラート／ボルトット（デザインスタジオ／イタリア）

ヴェネツィアとサン・マルコ寺院の床を彩るモザイクに思いを馳せながら、異なる金属で特殊な仕上げを施したモザイク作品によるインスタレーションを行います。デ・カステッリの協力を仰ぎ、ザネラート／ボルトットはモザイクのエレメントから何百年もの街の歴史を紐解いていきます。サン・マルコ寺院の装飾がいかに忍耐強く、時間をかけて作られてきたものであるかを証明するとともに、儼いながらも浸食に耐え、水の都のヴェネツィアを象徴する存在として大切に守られてきたかに迫ります。

「Mechanical Marvels」

キュレーション：ニコラ・ル・モワーニュ ECAL ラグジュアリー&クラフツマンシップデザイン MAS 課程 リーダー／スイス）、
共同キュレーション：サイモン・キッドストン（ヴィンテージカーブローカー、専門家、コレクター／イギリス）

Mec-Art と ECAL / ローザンヌ・アート&デザイン大学が協力。スイスの都市、サント・クロワと連携し、ユネスコの地域遺産認定を受けた機械産業文化を、ECAL のラグジュアリー&クラフツマンシップデザイン科の学生たちが5つのインタラクティブなインスタレーションへと展開していきます。

「Masterful Gestures」

キュレーション：ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門

Cenacolo Vestibule の壮大な空間で、フランスとイギリスの職人たちが傑出した技巧、時代を超えて現代へと受け継がれる永久の美の世界を来場者の前で披露。伝統工芸の最高技能者に贈られるメートル・ダール保持者を含むフランスの職人は、ベタンクール・シュエレル財団後援のもと国立工芸協会が選出。イギリスの職人は、若手職人の訓練と教育に尽力する Royal Warrant Holders Association 協力のもと、エリザベス女王奨学金信託（QEST）が選出。全体の構成はイタリアのメーカー、デ・カステッリが担当します。

「Italy and Japan: Marvellous Liaisons」

キュレーション：コロニー工芸財団

ヴェネツィアの豊かな環境のなかで育まれたイタリアと日本の文化交流にフォーカスし、イタリアの卓越した職人たちがいかに日本文化と対話を繰り返してきたかを探究。場内では、日本の装飾模様、技術、素材、様式に影響を受けたイタリアの人間国宝「MAM」の名工たち手業による作品を紹介します。

【15の展示解説】

「Blossoming Beauty」

キュレーション：ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門

インテリアデザイナーで舞台美術家のシルヴァン・ロカがデザインした幻想的なフラワーガーデンで、ヴェネチアのガラスメーカー、ヴェニーニがフラワーアーティストと協働した花瓶コレクションを展示。さらに参加のフラワーアーティストたちは、職人の知と技から生まれる豊かなものづくりを、満開に咲き誇る花と捉え、それぞれの花瓶にふさわしい美しい花束をデザインします。

「Next of Europe」

キュレーション：ジャン・ブランシェール（ギャラリスト/ベルギー、イタリア）、
ステファノ・ボエリ（建築家、都市プランナー、ミラノトリエンナーレ館長/イタリア）

ヨーロッパトップクラスの職人のなかで、特に若手の職人や次世代への技の伝授に力を注ぐ人々を紹介。彼らの機能的で装飾的な作品の数々を展示します。ヨーロッパの人間国宝の実演も会場で展開するなど、匠の指先から繰り出される珠玉の技を間近に感じるまたとない機会。

「The Artisan: a crafted tea room」

キュレーション：タピワ・マツィンデ（キュレーター/イギリス、ジンバブエ）

ボヘミアンスタイルのインテリアを機能的なティールームのなかに展開したくつろぎの空間には、世界中のデザイナーやアーティストの代表的な作品が並びます。椅子に座って、リラックスしながら、お茶を楽しむという日常の行為にクリエイティブな感覚を加えていきます。

「WAITING with peace and darkness」

キュレーション：ロバート・ウィルソン（監督、ビジュアルアーティスト/アメリカ）

演出家、ビジュアル・アーティストとして活躍するアメリカのロバート・ウィルソンは、自身作品からプッチーニのオペラ『蝶々夫人』に代表される日本に影響を受けた舞台美術に光を当てます。ウィルソンは独自のアプローチにより、1960年代に作られたスイミングプールをドラマティックな舞台装置へと転換。照明、音響、衣装、装飾、映像、小道具、家具など、名だたる職人と細部まで造りにこだわった空間は、見るものを一気に夢の世界へ。ウィルソンが日本の舞踏家、花柳寿々紫（はなやぎすずし）を自ら撮り下ろしたビデオポートレートシリーズも展示します。

「Details: Genealogies of Ornament」

キュレーション：ジュディス・クラーク（ファッション展覧会デザイナー&キュレーター/イギリス）

ジュディス・クラークがサム・コリンズとともに、変化に富む工芸の世界を多層的に紹介していきます。高級腕時計、靴、着物、宝飾などの分野から14の高級メゾンが参加。順路を囲むように作品を展示することで、まるで小さな星座のように、鑑賞する場所によってさまざまな見えがかりが生まれます。展示にあわせ14のメゾンの職人たちが最終仕上げをする様子も見学できる体験型展示。美しく仕上げた壁面パネルや特別にあしらえたタイル床が作品や職人たちの道具ともマッチします。

「Eilean」

キュレーション：パネライ（時計メーカー/イタリア）

1936年製造の伝説のヨット「アイリーン号」を、イタリアの名工が修復。サン・ジョルジョ・マッジョーレ島沖合に停泊していたこの船は、ゲール語で「小さな島」を示すバミュダ帆船で、元はスコットランドの船大工が製造したもの。そのデザインの美しさや厳選された素材を一つひとつ細かに検証しながら、新たな命を吹き込んでいきます。

【概要】

Homo Faber Event

Crafting a more human future

会期：2022年4月10日（日）～5月1日（日）

会場：ジョルジョ・チーニ財団（ヴェネチア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島）

ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門が主催する「Homo Faber Event」は、実演やデジタル技術、展示や手工芸などの表現を通じて、多様な素材、技巧による高度な職人技に焦点をあてる国際的な展覧会。今回は、機能的な日用品から圧巻の装飾品まで、未来へと残していくべき工芸の役割を明らかにしていきます。本展は、日本の人間国宝の超越した技を目の当たりにする絶好の機会でもあり、いかに工芸がアートやデザインと関係しているかをも知ることができます。来場者はヤング・アンバサダー・プログラムに参加している学生たちによるガイドツアーで15の展示を鑑賞。ヴェネチア湾の真ん中にあるサン・ジョルジョ・マッジョーレ島のジョルジョ・チーニ財団を、著名なキュレーターとデザイナーが、圧巻の展示室へと変換していきます。これに加えHomo Faber in Cittàと題し、自身でプランを立てながらヴェネチア市内を巡り職人技に触れるプログラムも用意しています。

homofaber.com

ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門

スイス・ジュネーブを本拠地に活動。より人間的で、未来へとつながる現代工芸に携わる世界の人々を支援する非営利組織。

工芸がアートやデザインとさらに深くつながることを目標としています。職人技とともに、多様な製造元、素材、技術を講究するとともに保護。工芸の価値を日常のなかで認識し、次世代のプロフェッショナルへの道が続くことを活動の基軸にとらえています。サマースクールなどの教育プログラムを支援するほか、デジタルプロジェクト「Homo Faber Guide」、国際展「Homo Faber Event」など、財団は職人と若手を育成するプログラムも行なっています。 . michelangelofoundation.org

〈協賛団体〉

国際交流基金 jpf.go.jp/j/

1972年東京に設立された国際交流基金は、世界規模の国際文化交流プログラムを行っています。芸術、文化交流、日本語教育、日本学の研究/活動を支援するなかで、世界に向けた日本文化の発信を目標としています。24カ国、25カ所の拠点を通じ、認定を受けた希望者に対しての助成金、奨学金、育成事業なども行っています。

ベタンクール・シュエレール財団 fondationbs.org

ファミリー財団であり、公益財団でもあるベタンクール・シュエレール財団は、フランスに未来と力をもたらす才能を最高レベルに引き上げることを目標に掲げ、生命科学、芸術、共生社会の三分野に利益をもたらす有形なものを未来に向けて提案する人々を、選定、支援、奨励しています。慈善の精神とともに、財団では表彰、寄付、個人支援、宣伝、共同制作などの活動を行います。1987年の創設以来、620あまりの賞を授与し、個人、チーム、団体による1000以上のプロジェクトを支援してきました。

コロニー手工芸財団 fondazionecologni.it

1995年に設立された非営利団。ミラノを拠点に、美術工芸の普及と保護を目的とした文化、研究、教育活動を行います。「ニュー・ルネッサンス」をスローガンに掲げ、絶滅の危機に晒されている美術工芸を保護。特に若い世代、次世代の職人の育成事業に力を注いでいます。

ジョルジョ・チーニ財団 cini.it

イタリア・ヴェネツィアを拠点とする非営利団体。国際文化施設を再統合するためにジョルジョ・チーニがヴェネツィアのサン・ジョルジョ・マッジョーレ島にて1951年に設立。現在は、人文研究の中心地として教育、文化、芸術など、あらゆる分野の研究と開発をサポートしています。

〈後援〉

トレニタリアが運行する快適で環境に優しいヴェネチアの高-speed列車「フレッチャロッサ」は、本イベントの公式パートナーです。

【PRESS CONTACT】 ご質問、取材・掲載等のご希望は下記へお問い合わせ下さい

竹形尚子（Daily press）

03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

info@homofaber.com - homofaber.com

Organised by



Under the high patronage of



In partnership with

